

60年代映画音楽の挑戦

日本の古き良き名作を、近年失われつつある35mmフィルムの上映で味わっていただくことを目的とした「優秀映画鑑賞推進事業」。今回は、開催中の企画展「映画と音楽の素敵な出会い PART II」に合わせ、1960年前後に登場した若き映画監督による作品群を、作曲家たちが模索した革新的な映画音楽に焦点を当ててご紹介します。



豚と軍艦

1961年/白黒/108分/日活

監督 今村昌平
音楽 黛敏郎
出演 長門裕之、吉村実子、南田洋子、大坂志郎、中原早苗、小沢昭一

基地の町・横須賀を舞台に、米軍の残飯払下げで豚を飼育し儲けを企むヤクザたちが、目先の欲に駆られて自滅していく様を描く。安保体制下の日本人への風刺として、無軌道且つコミカルに描く今村昌平監督の「重喜劇」。戦後の日本クラシック界を代表する作曲家・黛敏郎は「星条旗よ永遠なれ」をユーモラスに編曲・コラージュした。



情炎

1967年/白黒/97分/現代映画社

監督 吉田喜重
原作 立原正秋
音楽 池野成
出演 岡田茉莉子、木村功、高橋悦史、しめぎしがこ、菅野忠彦、南美江

松竹を離れた吉田喜重と岡田茉莉子が設立した独立プロダクション・現代映画社の第二作。複雑な人間関係や情欲に溺れる人間の性を通して、女の愛の世界を描いた異色作。日本映画界の名匠たちから厚い信頼を得た池野成による重厚なメロディが画面を際立たせる。立原正秋の直木賞受賞作「白い罌粟」を映画化。



少年

1969年/カラー/97分/創造社=ATG

監督 大島渚
音楽 林光
出演 阿部哲夫、渡辺文雄、小山明子、木下剛志郎

車にわざとぶつかり、言いがかりをつけてお金を請求する「当たり屋」をして日本中を放浪する少年と、その家族を描く。松竹ニューベルバグの牽引者として、1950年代末から野心作を立て続けに監督してきた大島渚の代表作のひとつ。映画を通して日本における国家や国民の枠組みを批判的に追求した。社会派作品を手がけることの多い作曲家・林光が音楽を担当。



心中天網島

1969年/白黒/103分/表現社=ATG

監督 篠田正浩
原作 近松門左衛門
音楽 武満徹
出演 中村吉右衛門、岩下志麻、滝田裕介、小松方正、加藤嘉、藤原釜足、浜村純、河原崎しづ江、左時枝、日高澄子

近松門左衛門の有名な人形浄瑠璃を映画化した篠田正浩監督の代表作。劇中に黒子を登場させるなど、映画に浄瑠璃を取り入れる実験的な演出を試みた。現代音楽の巨星・武満徹が、西洋音楽に東洋の伝統的な楽器や手法を取り入れ、映画の独創性を強めている。「キネマ旬報」ベストテンの第1位と、監督賞、女優賞を受賞し、ATGを代表する一作となった。

	9月7日(水)	8日(木)	9日(金)	10日(土)	11日(日)
10:30	豚と軍艦	少年	情炎	心中天網島	心中天網島
14:00	情炎	心中天網島 +上映解説(約40分)	少年	少年	豚と軍艦

鑑賞料金 一般:500円 小・中学生:250円(企画展観覧料含む)

※優秀映画鑑賞推進事業観覧料規定による

チケット発売開始日:8月13日(土)

※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。詳しくはお問合わせください。

※入館時、館内での感染予防対策にご協力ください。



主催:川喜多・KBSグループ(鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者)/国立映画アーカイブ
特別協力:文化庁/(社)日本映画製作者連盟/全国興行生活衛生同業組合連合会/株式会社松竹

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

TEL:0467-23-2500

<https://kamakura-kawakita.org>

Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館